

第三部

京都芸術大学を知る

Q 大階段うえの列柱に刻まれている言葉の意味はどういうことですか

東山三十六峰の第五峰、瓜生山の麓にある人間館の正面の大階段を登りきると、青森県三内丸山縄文遺跡の巨大な柱を模した、六つの大きな列柱が訪れる人をむかえてくれます。振りかえって西の方を眺めると、京都市街の向こうには西山連山が見え、やや北方には愛宕三山（愛宕山、地藏山、竜ヶ岳）の雄大な峰々がそびえています。この自然環境のもとにある学び舎が、ここに集う私たち人間の心を育んでくれるのです。

さて列柱には次のような言葉がぎざまれています。「思索」「情熱」「宇宙」「生命」「発見」「情念」の六つです。これらの言葉はいずれも人間精神の豊かさをあらわしています。それとともに人間という存在こそが、永遠に探究されるべきものであることを示しています。

この学び舎に集う日々のうちに、みなさんは、これらの言葉が意味するものは何か、そして人間とは、芸術とは何か、人間にとって芸術とはどんな意味をもつのか、という問いに向き合い、みなさん自身の答えを導き出してください。



人間館列柱に刻まれた言葉「思索」

Q 校舎にはいろいろな名前がついていますが、名前の由来は何ですか

キャンパスごとに建築年代の古い順にあげると次のとおりです。

〔瓜生山キャンパス〕

- ・興心館 一九七八年五月 荒廃した世の中から、人の心を興すこと、すなわち人間復興の願いをこめた。短大創設時の平澤興初代学長の名の一字をとる。 **K**
- ・天心館 一九八三年四月 明治の美術教育の先覚者・岡倉天心の名を冠して。 **H**
- ・松麟館 一九八六年三月 吉田松陰と幕末、明治の変革になった勝麟太郎（海舟）の名にちなむ。 **M**
- ・明倫館 一九八六年五月 吉田松陰ゆかりの萩藩の藩校の名。 **L**
- ・青窓館 一九八七年四月 本学の創設者・徳山詳直が、小さな天窓から仰ぎみる星空に勇気づけられた、青春時代の象徴として。 **G**

- ・地心館 一九八七年七月 地球の心、叫び、悲しみ、訴えに耳を傾けよう、という思いをこめて。 **E**
- ・楽心荘 一九八八年五月 『詩経』の「豊楽」、禅語の「道心」からとる。能舞台。 **A**
- ・直心館 一九九一年三月 禅の言葉「直心」、すなわち純粹無垢の心で自己をみつめることをめざす。 **J**
- ・有終館 一九九三年一月 物事を最後まで全うすることをめざして。 **YU**
- ・顕心館 一九九三年一月 心と技を厳しく鍛練する志をあらわして。 **KE**
- ・陽陽館 一九九四年三月 太陽の光を燦々とあびる立地から。 **YO**
- ・悠悠館 一九九六年四月 吉田松陰の「悠悠たり、天地の事。鑑照は明神にあり」より。 **Y**
- ・人間館 二〇〇一年四月 文芸復興とは人間精神の復興、また人間存在の矛盾の探究こそが、人類にとって永遠の課題であることをあらわす。 **NA NB NC**

- ・未^み来^{らい}館 二〇〇四年一二月 ことも芸術大学の命題である「こどもこそ未来」そのものから。最上階（四階）は認可保育園ことも芸術大学。 **F**
- ・至^し誠^{せい}館 二〇〇八年四月 吉田松陰の好んだ一節「至誠にして動かざる者は、未だ之れ有らざるなり（孟子）」から。 **S**
- ・千^{せん}秋^{しゅう}堂 二〇〇八年四月 吉田松陰の語「万巻の書を読むにあらざるよりは、いづくんぞ千秋の人たるを得ん」に由来する。
- ・瓜^{うり}生^{ゆう}館 二〇一一年一〇月 建て替え 瓜生山キャンパスの入り口に位置するから。 **U**
- ・智^ち勇^{ゆう}館 二〇一六年三月 吉田松陰『講孟余話』から「人いやしくも勇なくんば仁智並びに用をなさざるなり」より、智をもつて行動に移す勇気を学生に、の思いから。 **BR**
- ・望^{ぼう}天^{てん}館 二〇一九年七月 建て替え 西郷隆盛の遺訓「人を相手にせず、天を相手にせよ」から。 **BT**
- ・指^し月^{げつ}館 二〇二四年三月 移転 吉田松陰の故郷、山口県萩市の指月城に由来。新たに取得した建物に名称を継承している。 **SH**
- ・相^{さう}照^{しょう}館 二〇二四年三月 『故事成語考・朋友賓主』の「肝胆相照らす」から、互いに心の底まで打ち明けて親しく交際することのたとえより、友人たちと心ゆくまで交流できるよいうにという思いから。 **AT**
- ・敬^{けい}天^{てん}館 二〇二六年三月 「敬天愛人（天を敬い人を愛する）」から、友人たちに思いやりを持って切磋琢磨し続け有意義な大学生活を送ってほしいといった思いから。 **KT**



敬天館

〔高原キャンパス〕

- ・高原南館 一九八二年一月 改築 高原とはこの地の地名による。 **TS**
- ・高原北館 一九八四年四月 同右 **TN**

〔サテライトキャンパス〕

- ・外苑キャンパス（東京都・明治神宮外苑 二〇一〇年七月）
 - ・大阪サテライトキャンパス（大阪市北区 梅田エリア 二〇一〇年一月）
- 〔学外施設〕
- ・黒田村アートビレッジ（京都市右京区 一九八九年九月）
 - ・康^{こう}耀^{よう}堂^{どう}美術^{びいゆつ}館（長野県茅野市 二〇〇五年 本学に寄贈）
 - ・認可保育園守山こども芸術大学（滋賀県守山市 二〇二六年三月）

Q 瓜生山キャンパスはどんなところですか

瓜生山キャンパスは、瓜生山の西麓、安土桃山・江戸時代の豪商・茶屋四郎次郎の別邸があったことから茶山と称される丘陵の一面にあります。白川通り沿いの大きな階段を上ってすぐ、人間館には、スチューデント・オフィスや学生支援センター、キャリアデザインセンター、カフェ、ショップ、ギャラリー、望天館には学習支援・教育開発センター、至誠館には学生食堂があり、皆さんの学生生活を支える機能が集められています。

各種研究会や公開講座、展覧会などに学外からも多数の人が訪れる瓜生山キャンパスは、通学課程のほ

か、通信教育課程、専門学校、日本語学校、高校、保育園が活動する校地であり、次代を担う文化的創造の実験と実践を推進する場として、日曜・祝日も休むことなく芸術のエネルギを発散し続けているのです。

Q 高原キャンパスが離れているのはなぜですか

京都芸術短期大学発足時には、この地に校舎が建てられていました。その後、瓜生山キャンパスが誕生して、発展していったために、キャンパスの位置はやや離れています。その後、現在に至るまで、高原キャンパスをさまざまな学科・コースが活用してきました。その意味で、高原キャンパスは本学のなりたちと歴史を刻んでいるのです。

キャンパスの正面には以前ここにあったアパートで学生時代をすごしていた韓国の詩人・尹東柱ユンドンジュの平和への思いを受け継ぎ、記念碑が建立されています。

Q 春秋座という劇場について教えてください

春秋座は二〇〇一年五月に開設されました。わが国の高等教育機関で始めて実現した、大学が直接運営する本格的な劇場です。当時の副学長で、初代芸術監督であった歌舞伎俳優の三代目市川猿之助氏が、長年温めていた理想の粋を集めて設計・監修したものです。回り舞台、追、花道、オーケストラピットなど充実した舞台機構を備え、伝統芸能から最先端のマルチメディア・パフォーマンスまで、幅広く上演できる劇場として全国から注目を浴びています。芸術監督は二〇一三年四代目市川猿之助氏に、二〇二三年に

は八世藤間勘十郎氏に受け継がれました。

春秋座の運営の理念は、教育、研究、社会貢献の三つの目的をバランスよく実践することです。教育の目的としては、学生が卒業公演や授業発表公演を行なうことはもちろん、案内係や舞台スタッフの作業などでプロの現場に関わること、一流のアーティストの舞台を身近に観賞できること。研究の目的とは、「実験と冒険」を試みた最新の舞台芸術を発信すること。そして、社会貢献の目的とは、より広範な観客を対象に、気軽に足を運んでもらうために上質な公演を提供していくことです。これまでに開催されたジャンルは、歌舞伎、能狂言、日本舞踊、人形浄瑠璃、落語、コンサート、バレエ、ミュージカル、オペラ、コンテンポラリー・ダンス、現代演劇など多岐の分野にわたっています。

また、二〇一六年五月に二代目市川猿翁氏から、約二万点にのぼる貴重な歌舞伎関係の映像や台本、パンフレット等の資料をご寄贈いただきました。その資料は三代目猿之助の足跡だけでなく、昭和、平成の歌舞伎の歩みを知ることができる貴重なものばかりです。三代目猿之助の歌舞伎人生そのものともいえる寄贈資料を、歌舞伎の世界だけでなく広く舞台芸術の歴史の一部として後世へと受け継ぐために、大学ではいただいた資料を活用した「猿翁アーカイブ」プロジェクトを本格稼働させています。

併設している小劇場〈studio 21〉は、現代演劇やダンス・パフォーマンスなど、さまざまな舞台芸術のための実験空間です。舞台芸術学科の学生の実習や発表公演、アーティストによる実験的な公演を行っています。



春秋座

Q 芸術文化情報センターとピッコリーについて教えてください

人間館地下一階にある「芸術文化情報センター」は、他の大学のいわゆる「図書館」にあたるものです。ではなぜ、「図書館」と呼ばずに、「芸術文化情報センター」と呼ぶのでしょうか？

一九九一年の開学当時、本学は「図書館」を持っていました。しかし当時から、単に書籍を所蔵して貸し出すことだけではなく、デザインや映像などの多様な教育内容を反映し、多くの視覚情報資料にアクセスできる「メディア・ライブラリー」の役割を果たしていました。資料のデジタルデータベース化や学園全体の情報化を推進するなど、日進月歩する情報技術と同期した活動を行っていたのです。

そうした活動を継承しつつ、新たな構想を加えて、二〇〇一年四月に人間館の地下一階に開館したのが芸術文化情報センターです。資料を検索し閲覧できる通常の図書館としての機能のほかに、研究個室やパソコン設備を備え、データベースや映像閲覧にも大きな利便性をもった、芸術に関する「情報」を総合的に扱うというコンセプトのもとに作られた施設です。ですから、単なる「図書館」ではないという意味をこめて、「芸術文化情報センター」という名称がつけられています。

二〇二五年度の蔵書数は図書・雑誌・視聴覚資料を合計して一六万九五六点となり、本学の学びに欠かせない施設となっています。

なお図書の貸し出しを受ける場合は、学生証が必要です。借りたい図書を学生証とともに受付カウンターに持参してください。学部生の貸し出し可能冊数は一〇冊、期間は二週間、大学院生の貸し出し可能冊数は三〇冊、期間は一カ月間となっています。

情報センターの開架書庫の後方には、「奈良本辰也記念文庫」が特別なスペースを占めています。奈良本辰也（一九一三～二〇〇一）は元立命館大学教授で、日本中世史、幕末史の分野で多数のすぐれた著作をあらわした歴史学者です。とりわけその著書『吉田松陰』（岩波新書）は本学の創設者・徳山詳直に大きな思想的影響を与えました。奈良本は一九八五年、学校法人瓜生山学園の理事（後に顧問）に就任し、没後にはご遺族から蔵書約一万二千冊が本学に寄贈されました。奈良本辰也記念文庫は寄贈された蔵書を整理して開架するだけでなく、再現された生前の書齋や遺品も公開していますので、ぜひ一度はじっくり見学してください。

芸術文化情報センターと同じく人間館の地下一階にある「ピッコリー」は、京都芸術大学の前身である京都芸術短期大学の開学にあたり「未来を担う子どもたちのための施設を大学内につくりたい」という徳山詳直の願いから、開学翌年の一九七八年に開設された施設です。「ピッコリー」とは「子ども」を意味するイタリア語 *piccoli* から取られています。地域の子どもたちが楽しく、明るく、夢と希望に満ちた文化的環境のなかで育つことを願って、「お母さん（＝母親、大地、地球）とともに生きる運動」を続けている児童図書館です。このピッコリーは二〇〇五年に開設されることとなった「こども芸術大学」、さらに二〇一九年四月に開設された「認可保育園こども芸術大学」の出発点ともなっている思想の原点でもあります。

現在ピッコリーは児童文学や児童文化に関する資料約一万七四一七点を所蔵しており、なかでも特に絵本が充実していることが特徴です。芸術文化情報センターのこども図書館部門として、子どもたち、学生、一般市民に広く開放され、親しまれています。

Q 学習支援・教育開発センターについて教えてください

二〇二六年四月に設立された「学習支援・教育開発センター」には、「学習支援室」「日本語学習支援室」「教育開発室」の三つのセクションがあります。「学習支援室」では、みなさんが主体的かつ自律的な学びを実現するためのサポートとして、アカデミック・アドバイザーによる学習相談や各種プログラムを提供しています。アカデミック・アドバイザーとの面談は、みなさんの学習状況を丁寧に確認しながら行うため、予約優先制で受け付けています。

「日本語学習支援室」では、留学生のみなさんが日本語能力を身につけるための正課授業の運営のほか、個別に相談や指導が受けられる「日本語学習相談」や、留学生が集まって会話を楽しみながら学習する「日本語カフェ」などのプログラムを提供しています。

「教育開発室」は、本学の教育に関するデータを収集し、評価・検証を行い、教育の質向上に向けた取り組みに貢献します。みなさんが回答してくださった「授業改善アンケート」や「学生生活・学習アンケート」などの分析を行い、改善が必要な事項は大学に報告し、より良い教育を実現していきます。

「学習支援・教育開発センター」のあるラーニングコモンズ（望天館一階）では、レポート講座や学習相談会、国際交流プログラムなど、たくさんの講座やイベントを開催しています。またラーニングコモンズは、みなさんが個人学習やグループ学習、学び合いに使うための場所として開かれています。ぜひ気軽にご利用ください。

Q 学生支援センターについて教えてください

「学生支援センター（通称レポート）」には、「健康支援室」「学生相談室」「UDL (Universal Design for Learning) 推進室」という三つのセクションがあります。

「健康支援室」では、保健師・看護師がみなさんの健康に関する相談や、ケガの応急処置などを行っています。年に一度、健康診断も実施しています。身体の調子が悪い、ケガをした、一人暮らしを始めてこの病院を受診したらよいかわからない、健康について知識を得たいなど、いつでも気軽にご利用ください。学校医（内科医・精神科医）による健康相談も行っています。

「学生相談室」は、臨床心理士・公認心理師の資格をもつカウンセラーが、みなさんの大学生活における様々な悩みや問題について共に考え、解決するための手がかりを一緒に探すところです。カウンセラーがひとりひとりの話をきちんと聴いて対応するため、予約制としています。また、来談が困難な事情がある場合には、オンラインや電話での相談にも応じます。学生相談室で話された内容を、相談者の許可なく第三者に伝えることはありません。ひとりで抱え込まず、学生相談室のカウンセラーに相談に来てください。

「UDL 推進室」では、本学に在籍する障がいのある学生が有意義な学生生活を送ることができるよう、専門のコーディネーターによる支援を行います。障がいにより修学上の困難や不自由がある場合、学生本人からの申請を「UDL 推進室」が受け付け、大学と本人（場合によっては保護者も含む）の双方の建設的対話による相互理解を図ったうえで、合理的とみなされる範囲内での支援内容を決定します。

「学生支援センター」は人間館地下一階にあります。ふらっと立ち寄ることのできる「フリールーム」もあります。「特に相談したいことがあるわけではないけど、ちょっと静かな場所で落ち着きたい」といったような時には、ぜひご利用ください。

Q キャリアデザインセンターについて教えてください

「キャリアデザインセンター（略称：CDC）」は、進路決定に関する支援及び指導を担う全学的な組織として設置されたセンターです。専門資格をもつカウンセラーが在籍しており、キャリア支援に関する専門的立場から、学生の主体的かつ自律的な進路決定を支援し、本学の教育目標に掲げる「人間力」と「創造力」を備えた人材の輩出に寄与することを目的としています。

CDCでは、皆さんの進路決定に向けた相談や各種プログラムの企画・運営を行っています。具体的には、面接練習や書類添削などの個別相談のほか、就職支援講座やガイダンス、企業説明会も年間を通じて開催しています。また、オンライン面接用ブースの貸し出しや就活図書の開架・貸し出し、内定先輩ポーターフォリオの公開など、芸術大学ならではの取り組みも行っていきます。カウンセラーとの個別相談は、一人ひとりの希望や活動状況を丁寧に確認しながら進めるため、予約制としています。対面での相談に加えて、オンラインでの相談にも対応しています。

CDCは、人間館一階のチューデント・オフィス内にあります。進路について、「まとまっていなくても、話を聞いて欲しい」といった段階からの利用でも構いません。ぜひ気軽にご利用ください。

Q 本学にはどのような飲食施設がありますか

本学の飲食施設は、以下のようなものがあります。

学生食堂―至誠館五階

キャッシュレス券売機で注文、定番や月替わりの美味しいメニューが人気です。

BREATH KUA (カフェ)―人間館一階ラウンジ

ドリンク、パン、サンドウィッチ、スイーツが楽しめます。

お弁当街道―人間館一階ラウンジ

学生食堂手作り一〇種類と韓国料理、おにぎり、カレー等のお弁当を販売しています。

デイリーヤマザキ―人間館二階

パン、おにぎり、カップ麺、ペットボトルのお茶やジュースを販売しています。

キッチンカー―瓜生山キャンパス（望天館東駐車場）

ごはん系からスイーツ系まで多彩なグルメを手軽に楽しめます。

進々堂―瓜生館一階

ベーカリー併設のセルフカフェで、焼きたてパンとドリンクが楽しめます。

ドンク―敬天館一階

フランスパン、食パン、菓子パン、サンドウィッチ等を販売します。

※その他人間館ラウンジにはパンやカップ麺の自動販売機があります。

※飲み物の自動販売機は各校舎に設置しています。

Q なぜ瓜生山学園が通信制高校をつくったのですか

京都芸術大学附属高等学校は二〇一九年四月にスタートした、まだ新しい学校です。

開校八年目を迎え、七〇〇名を超える生徒が集い、本学と同じ瓜生山キャンパスの中で学んでいます。

また、二〇二五年には新しく「じぶんみらい科」が誕生し、関西圏だけでなく、全国から生徒が集う学校に拡大しました。

本学園は開設当初より「藝術立国」の理念のもと、他者を思いやる「想像力」と、新たな価値を生み出す「創造力」を育み、その力を社会に役立てることができる人間の育成を使命としてきました。その実現に向けて、短大、大学、そして通信教育部を設立することで世代や地域の枠を越え、さらにそれを拡げていくために念願だった高校の設立に至りました。

芸術大学附属の学校ですが、あえて芸術・美術に特化した学科を設置していません。それは、芸術や表現活動の根本にある考え方を、より多くの生徒に伝え拡げたいという想いを込めていることが理由です。

現在の中等教育では生徒の多様化が進み、一人ひとりにあった学び方が求められるようになりました。自分のペースで学習が進められる通信制高校の教育システムの利点が見直された結果、全国の高校生の約一〇人にひとり（令和七年度学校基本調査）が通信制高校に在籍し、多くの生徒にとって自分にあった学びができる学校として社会的な役割を果たしています。

そういった背景の中、附属高等学校では、個性を尊重し他者を認め合うという芸術的観点をもつ生徒の育成を目指して教育に取り組んでいます。そのため、従来の「通信制高校」とは全く異なる新しい教育スタイルをとっています。

例えば、普通科では社会に出ると必然的に求められる「コミュニケーション力」を身につけることを目的に、週三日間の登校を基本としています。ここでは、単に公式や用語を覚える受験対策の授業ではなく、「自分の考えを伝える」「相手の意見を聴く」という対話型の授業を全教科で行っています。合わせて学校行事や同好会活動にも力をいれており、互いに学び、成長し合う場としています。

二〇二五年開設の「じぶんみらい科」は、オンライン学習をベースとしながら、本学の教員と共同開発をしたデザイン思考を学ぶ創造科目や、探究科目の学習を通じて、「身近な社会課題を発見し、他者と協働して解決方法を考える能力」の育成を目指します。

二〇二〇年九月、シンガーソングライターの岡本真夜さんの作詞作曲による校歌「光」を、全校集会において発表しました。生徒自身の「自分らしさ」をなによりも大切にし、「一〇年後、いきいきと社会に参画できる人材の育成」することを教育目標に、前進を続けています。

Q 瓜生山学園には、他に、どのような学校があるのですか

この学園には、大学・高校・保育園の他に、「京都芸術デザイン専門学校」「京都文化日本語学校」の二つの学校があります。専門学校は二年制で、ビジュアルデザインやインテリアデザインなどの六つのコースがあり、六六八名の学生たちが学んでいます。日本語学校では、約三八の国・地域より三三三名の外国人学生が、半年から二年をかけて日本語と日本文化を学んでいます。

また、各校の学生たちは大学のプロジェクトや大瓜生山祭、サークル活動に参加するなど、学校間の垣根を越えた交流が行われています。

Q 芸術教養センターとその学びについて教えてください

本学のかかげる建学の理念である「藝術立国」を実現するために、自立したひとりの人間として他者を肯定し、共に生きていく「人間力」と、豊かな想像力をもって新しいもの・ことを創り出す「創造力」をそなえることが本学学生全員の到達目標です。その目標達成を支援するために、学科を越えて全員が共通して履修できるカリキュラムを運営しているのが芸術教養センターです。

芸術教養センターが提供する科目群は、本学の理念である「藝術立国」を理解し、芸術を未来社会に活かす上で必要なテラシーの修得を目的とした七つの科目群から構成されます。すなわち、広く世界や人間を知り、「藝術立国」の理念を社会で実現するための教養を身につける「教養科目群」、自身の興味に応じて芸術の理解をさらに深める「芸術科目群」、芸術を社会につなぎ、多文化共生の礎を創る「コミュニケーション科目群」、学科横断的な環境のなかで、芸術の学びを社会で実践する「プロジェクト科目群」、「藝術立国」の理念に基づき、国際社会における日本の伝統文化について理解を深める「日本文化科目群」、自己と社会に対する理解を深め、自身のキャリア形成を考える「キャリアデザイン科目群」、そして領域横断的な学びを通じて、主専攻での学びをさらに発展させる「副専攻科目群」です。

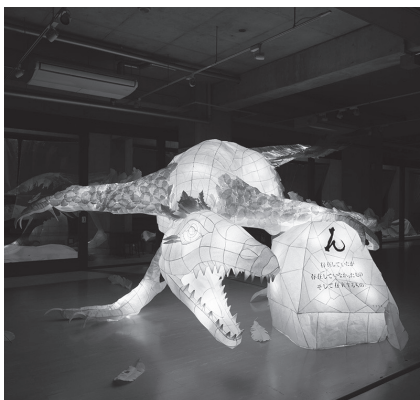
特に、二〇二四年からの「副専攻科目群」は、新しい未来を芸術で切り開き、社会変革を実践できる人材を育成するため、専門科目（主専攻）での学びを主軸としながら、分野横断での体系的な学びを通じて、さらなる強み（知識・能力）を獲得し、主専攻での学びを応用・活用するために開設されるものです。

みなさんは各学科でそれぞれ専門的なことを学びますが、それだけでは芸術学士として本学を卒業するには足りません。専門的知識・技術を学ぶことと連動しながら、同時に教養と社会性を身につけ、自分と世界の将来を考える知識と構想力を深めることが必要です。芸術教養センターは、そのような学びの場と

カリキュラムを提供する組織です。本学ならではの幅広い分野にわたる授業が開講され、みなさんが将来の視野と可能性を広げるための新しい知と出会う場となっています。

Q「クリエイティブ・プロジェクト」で「ねぶた」を制作する理由を教えてください

芸術教養センターの用意する「プロジェクト科目群」には、一年生が基本的な人間力と創造力を養うために、前期の「マンデー・プロジェクト1・2」および夏期集中の「クリエイティブ・プロジェクト」が選択科目として設けられているのが大きな特徴です。このふたつの科目は他の芸術教養センターの科目と同じく、所属学科の枠を超えた横断的なクラス編成で受講します。



2025年度 ねぶたの様子 撮影：高橋保世

ワークショップやプロジェクト形式の授業は、考える力と協働する力を、実際に手足・身体を動かし、他の学生と話しあい協力しあう中から身につけてゆくものです。ここでは芸術を学ぶ学生として、ものを生み出す人間として重要な「自身の発見」と「他者の理解」の大切さを学び、創造することへの基礎体力をつちかいます。そのために「クリエイティブ・プロジェクト」ではクラスごとに一致団結してプロジェクトの集大成、「ねぶた」を創り上げます。毎年違うテーマが出され、各クラスが独自に企画を練り、設計し、準備を重ねて制作し、最後に完成した「ねぶた」を点灯して展示するというクラスみんなが力を合わせる授業になっています。その過程で他者とコミュニケーションを行い、多くの失敗や葛藤に直面してもその困難を克服し創造することによって、「人間力」を成長させていくのです。

開始から一八回の歴史を誇る「ねぶた」は、本学の九月の夜を彩る独自の恒例イベントになっています。そしてこのイベントは、あくまで一から学生が考え、力を合わせて制作・実行するという、芸術大学にふさわしい学びの結果なのです。

Q 学生サークル活動にはどのようなものがありますか

本学には約四〇の公認クラブ・サークルが活動しています。「バスケットボール部」、「バドミントン部」、「サッカー部」、「スキー部」などスポーツ系から、「軽音サークル」、「桃色女剣劇団（大衆演劇）」、「学生茶道部」、「華道サークル」、「陶芸サークル」など芸術大学らしい団体まで多彩なラインナップです。なかでも「和太鼓しん」や「ジャグリングサークル」は学内外で数多くの公演を行うなど、活動を盛んに展開しています。最近では、制作系の「加子母木匠塾かしもくしよじゅく」「下303a製作所」「国際交流サークル」なども次々と誕生しています。また公認クラブ・サークルを新たに申請する制度もあり、一定の基準を満たせば、活

動補助金等が支給されます。

詳しくは、在学生専用サイトのクラブ連盟ページ (<https://www.kua-sc.com/club/>) をご覧下さい。

Q 「代議員制度」とはなんですか

本学通学部の全学部生を会員とする学生組織「学生会」を、中心となって運営する人を代議員と言います。代議員制度とは、各学科・コースより代表者である学生（代議員）を選抜し、一年を通して学生会を運営する制度です。代議員は年二〜三回、代議員総会を開き、より充実した学生生活を送ることができるよう協議したり、大学への要望などをまとめたりします。大瓜生山祭や新入生歓迎イベント、「遭遇展」（学生有志展覧会）などの運営も代議員が中心となって行います。

Q 「GPA 顕彰制度」「優秀学生賞」とはなんですか

GPA 顕彰制度とは、真摯に学修に取り組み優秀な学生を顕彰する制度です。

みなさんの成績の質を数値化したものをGPA (Grade Point Average) と呼びます。履修登録をした科目に対して多くの科目でよい成績を修めるとその年度のGPAは高くなります。また、その学修姿勢を継続することで四年間のGPAも高くなります。

本学では、毎年度はじめに前年度のGPAが高かった学生を学年・学科ごとに掲示し発表しています。また、卒業式において各学科で四年間のGPAが最も高かった卒業生を表彰しています。



2025年度 学生会メンバー

「優秀学生賞」は三年生修了時点までの成績や研究・制作活動に秀でた学生を顕彰するものです。二〇二五年度は、六四名の四年生が「優秀学生」として表彰されました。

Q「芸術教育の社会実装」とはなんですか

本学園が掲げる「芸術立国」の理念、そして「社会の変革に役立てる人材の育成」という教育目標は、常に社会の動向を注視することが求められます。そのため、本学では「芸術教育の社会実装」をめざし教育・研究活動を展開しています。芸術教育の社会実装とは、次の五つのステップを繰り返し行うことを意味しています。①本質を見抜く観察力を持って社会の抱える課題を把握する。↓②人々の幸福な体験価値を提供するアイデアを考案する。↓③アイデアを早期に具現化する。↓④社会に公開し評価を得る。↓⑤フィードバックをもとに改善を繰り返しアウトプットの質を高める。そして本学では具体的に、一、芸術教養科目としてさまざまな専門領域を学ぶ学生が協働して取り組むプロジェクト型授業、二、各学科・コースの専門課題、三、大学全体で選抜されたメンバーで取り組む高度な社会実装案件の三つの分類で取り組んでいます。その学びを通じて、物事をよく観察して多角的に捉えることに始まり、何が問題かを発見して「問い」を立て、具体的な解決策を創造する力を手にしてほしいと考えています。社会の変化に伴い生じる様々な課題を発見し、その課題を解決した後の人々の幸せな姿を想像し、アイデアの具現化によって課題を解決する。そうした絶え間ない繰り返しですが、本学の理念である「芸術立国」の実現につながります。

Q ウルトラファクトリーとはなんですか

世界基準の工房でトップクリエイターと学生が共に制作できる環境として、二〇〇八年に「ウルトラファクトリー」を設置しました。本学のすべての学生が「想像したことを具現化する方法を考える」という思考を習慣化し、その実現に向けた技術・知識を習得することを目指して、金属加工・樹脂成型・木材加工・シルクスクリーン・デジタルファブリケーションと様々な分野の工房を揃えています。それぞれの工房には、多様な制作ニーズに対応できる機材が設置されており、専門のテクニカルスタッフがみなさんの制作、実験、研究を手厚くサポートします。また、第一線で活躍するアーティストやデザイナーを迎え、プロフェッショナルの仕事の現場を「学びの場」とするプロジェクト型実践教育プログラム「ULTRA PROJECT」には、毎年多くの学生が参加しています。このプロジェクトを通じて、クリエイターの制作過程や発表の場に立ち合い、その思考プロセスや制作技術、仕事に挑む姿勢などを間近に体感し、学ぶことができます。本プロジェクトで制作された作品は、芸術祭など国内外で数多く発表されてきました。

Q「卒業展・修了展」について教えてください

卒業展は学部の各学科の卒業予定学生が行う展覧会で、修了展は大学院修了予定院生が行う展覧会となります。それぞれの学生が在学中に研究・制作をし、審査を通過した作品を学内で発表・公開する場です。



ウルトラファクトリーの様子

学生生活を過ごしたキャンパス全体を美術館として見立てて、個性豊かな作品を展示します。

芸術大学の最終発表の場は「見せる場」です。みなさんも今の制作を今後に繋げ、研究や制作の課題に向き合っていけば、卒業展・修了展で「自分自身」を見せることができるでしょう。

Q 「DOUBLE ANNUAL」とはなんですか

「DOUBLE ANNUAL」は、本学の教育理念、教育成果を広く社会に発信することを目的に、国立新美術館で開催する学生作品選抜展です（通称：東京展）。

前身となる「KUA ANNUAL」（二〇一八～二〇二二年、東京都美術館にて開催）を引き継ぎ、芸術教育のあり方を問い直し、未来の社会に対して芸術的視点から何が提案できるのかを考えることを理念としています。第一線で活躍するキュレーターを招聘し、提示されたテーマに応答する形で制作を行うとともに、対話を続けながら展覧会をつくり上げる、実践的な芸術教育プログラムとなっています。

二〇二三年からは姉妹校である東北芸術工科大学からも学生選抜を行い、展覧会名を「DOUBLE ANNUAL」と改めました。片岡真実監修のもと、京都ディレクターに堤拓也、山形ディレクターに慶野結香を迎え、三名の共同キュレーション体制のもと、六本木にある国立新美術館で展覧会を開催するという大プロジェクトへと発展しています。

京都と山形という二つの異なる地点から、現代世界をどう見つめることができるのか、それが東京や世界からの眼差しにいかに関わり、共感されうるのか。みなさんもぜひ現地に足を運び、自分の目で確認してみてください。



DOUBLE ANNUAL
(2025年2月)
内覧会の様子

Q 国連等との活動を教えてください

二〇二〇年十一月に国会ならびに本学春秋座にて開催された国際連合創設七五周年記念事業「芸術文化学術フォーラム2020 in 京都」で発表された芸術文化学術・京都宣言を機に、二〇二一年三月に京都国際平和構築センターを設立しました。

京都国際平和構築センターは、藝術立国・京都文藝復興の理念のもと、国際平和と文化、安全保障、開発と貧困、環境保全の課題に対して、日本そして国際社会に情報や知識を共有するとともに、芸術・文化の活用によって国際社会の平和構築に貢献することを目的としています。この目的の達成のために国際連合をはじめ、国連システム学術評議会（ACUNS）、国連大学などの国際機関や国際NGO、日本の公的機関、大学や研究機関、民間企業などと協働し、活動を行っていきます。

Q 海外との交流にはどのようなものがありますか

本学の教育・研究活動の特徴の一つは「世界に開かれた大学」であるということです。

本学では現在、世界一七カ国、四〇大学と交流協定を結び、さらにその中の二二カ国二二大学と交換留学協定を結んでいます。「交換留学」は、本学と協定を結んだ海外の大学に、交換留学生として一学期間滞在し、海外のトップ校で現地の学生とともにアートやデザインを学び、考えや表現の幅を広げることができるプログラムです。同様に、協定校からも交換留学生が本学に来て、みなさんとともに学ぶ制度です。交換留学以外にも、世界のアートやデザインに触れ、国際的な視野を広げるためのプログラムが多数用意されています。「異文化交流ワークショップ」では、協定校から来日した交換留学生や、併設校の京都

文化日本語学校で学ぶ留学生たちと交流するプログラムです。二〇二五年度は、伏見稲荷大社を訪問した「My Character Visits Pushimi Inari」物語でつなぐ私の国と京都」や、みそ作り体験を行う「生活と発酵—みそ作りから学ぶ—」等を実施しました。

また、オンラインで受講できる英語学習サービスを、学生特別価格で提供し、語学力アップを目指す「オンライン英語学習サポート」や、放課後に気軽に話しながらコミュニケーションできる「英語カフェ」「韓国語カフェ」などもあります。夏季休暇や春季休暇を利用して参加する「海外研修」は、海外に短期滞在（五日〜一〇日程度）するプログラムで、海外がはじめての学生でも応募することができます。普段の旅行とは一味違う海外経験が得られるだけでなく、単位として認定されるプログラムもあります。

これから社会で活躍するみなさんは、国内諸地域の課題解決の視点とともに、変化する国際社会に対する視点を持ちながら芸術を考えることが必要になります。ぜひ本学の国際交流事業を積極的に活用して、将来世界に羽ばたくための知識と経験を身につけてください。

Q 就職先は、どのようなところが多いですか

本学学生の半数以上が専門教育で養った能力をいかした就職活動を行っています。デザインを学んだ学生がデザイナーとして就職するなどはもちろん、映画学科の学生がそのバイタリテイで広告や建築会社に採用されるなど、応用力をいかして就職活動を行う学生も少なくありません。さらには、グループワーク型授業やプロジェクト授業や各学科の社会実装科目などで培った、本学独自の「人間力」や課題解決能力によって、広く一般企業へと就職する学生も多くいます。二〇二五年春には七八四人の就職希望者のうち七五〇人が進路を決めました。卒業生に占める進路決定率（就職または進学をした学生の割合）も、九〇

%を超えて推移し日本の芸術大学ではトップクラスです。

就職先の業種は映像、アパレル・テキスタイル、広告、建築設計・内装・造園、ゲーム・アニメ・CG、食品、文具・玩具・雑貨など様々です。在校生専用サイトにすべての就職先企業名を公表しています（<https://www.kyoto-art.ac.jp/student/cdc/>）。クリエイティブ職のほか、総合職、営業職・販売職・製造職・事務職など、多様な職種に就職を決めました。ただし、大学の授業を受け課題をきちんとこなせば就職したい会社に就職できる、というものではありません。大学は特定の会社の就職試験に合わせた授業カリキュラムや課題を編成しているわけではないからです。最近では三次次に企業が実施するインターンシップに参加することがあたりまえになっていますが、その時点でポートフォリオにまとめられる自分の業績や成果が質量ともに揃っていないと勝負になりません。SPIなどの、国語や数学、時事、一般常識といった筆記試験も大半のクリエイティブ職で課されるようになります。ある意味で高校受験や大学受験よりも厳しい現実が待っているといっても間違いではないでしょう。そのいっぽうで、そうしたハードルを楽々と越えてしまう学生たちがいるのも事実です。本学では芸術教養科目、各学科専門科目の中で自己分析や業界研究などその時々々のタイミングで必要なキャリア関連授業を用意していますので積極的に履修してください。作家になりたい、映画監督、俳優になりたい、自分のブランドを立ち上げたいなどの入学時の夢は大切に、これからの大学生活にのぞんでください。一・二年生では、授業や制作、プロジェクト活動、クラブやサークル活動などに積極的に取り組んでください。インターンシップに参加する三年生になるころには、それまで学んだ知識や経験がもとになって、将来のビジョン（自分の軸）が明確になっているはずですよ。

Q 京都芸術大学の大学院はどんなところですか

大学院は、四年間の学士課程を経たのちに、より専門的な研究・制作を行う場です。大学、企業、研究所などで研究職に就こうとする場合は、大学院修了は必須の条件です。しかしまた、最近では経営学修士(MBA)など、必ずしも研究職に限らず、大学院で得た知識や能力を会社や団体の実践的な仕事に生かすことも広まってきました。本学大学院の修士課程では芸術修士(MFA)または学術修士(MA)を取得できます。MFAと同等の学位を持つ人材は、近年、企業も関心を寄せています(本学ブログ参照 <https://www.kyoto-art.ac.jp/t-blog/?p=89628>)。

また修士課程では、対面型の芸術専攻、対面授業と遠隔指導を併用する芸術環境専攻、そして完全オンラインの芸術専攻(通信制)があります。進学希望者のさまざまな居住地や仕事の環境、経済的条件にフレキシブルに対応できるシステムを持つ、国内唯一の芸術系大学院です。卒業後、仕事をしながら研究を深める場としても役立ちます。

本学大学院の特徴として、さまざまな研究センターとの連携があります。日本庭園・歴史遺産研究センター、舞台芸術研究センター、デザイン工芸研究センターなど、本学の附置研究機関との協力のもとで「プロジェクト科目」が設けられており、そこではアーティストや研究者との交流や専門職のインターンシップ的な経験を積むことで、院生たちのキャリア構築の一助となることが目指されています。

とりわけ、大学院に附置されるICA京都(Institute of Contemporary Arts, Kyoto)では、海外からの招聘研究者・作家との交流や国外アーティスト・イン・レジデンスの情報提供など、学部生のみならずにも関係するさまざまな活動を行っています。また同様に附置機関のアルトテックは、学外での作品の展示や販売を仲介することで主に美術系の大学院生、修士生の制作活動を支援しています。

大学院修士課程の二年間は、興味ある対象を研究テーマに定めて、じっくりと向き合い、考えを深める期間です。理論研究の分野では、文献調査、実地調査、実験等を通して得られた研究成果を学術論文としてまとめあげていきます。創作・表現の分野では、作品を制作するとともに、関連する資料調査、技法・材料研究、制作過程で見いだされた新たな気づきや専門分野の知見を論文にまとめ、自分の作品を自身の言葉で語る力を身につけていきます。修士号を取得して社会で活躍する学生も多いですが、さらに進んで博士の学位を目指す人もいます。

なお、卒業後の進路として本学大学院への進学を希望する場合、学部三年次の二月及び学部四年次の六月に「大学院学内特別選抜制度」に申し込むことができます。本学独自のこの制度は、進路の早期決定によって創作・研究活動がより充実することを期待し、二〇〇九年度に導入されました。選抜審査に合格すれば、「大学院進学内定」の状態で学部四年次の卒業研究・制作を行うこととなります。

選抜審査の合格者は、大学院が開講する科目を学部四年次に履修することができ、修得した単位は一〇単位を上限として入学後に認定されます。修了要件である科目が入学前に履修済みとなることで、大学院では週ごとの時間割に制約されずに自分の研究・制作を進めることも可能です。また、大学院入試の評価対象となる提出物の一部が免除され、専門分野の資料(論文、作品ポートフォリオなど)の準備に集中できます。

毎年六月に募集要項が大学ホームページ上に公開されますので関心のある人はぜひ確認してください。

Q ホームカミングデー、瓜生山学園賞とはなんですか

一九七七年の京都芸術短期大学の開学から数えて、二〇一七年四月に本学は開学四〇周年を迎えました。それを記念して、様々な四〇周年記念事業が行われました。その一環として二〇一六年十月九日に開催された「第一回ホームカミングデー」。これまでの本学の歩みを卒業生のみなさんと共に振り返りながら、学園とつながる卒業生ネットワークの強化により、「藝術立国」の理念実現に向けた活動のさらなる展開を目指して開催されました。

このホームカミングデーは、毎年秋に開催され、多くの在学生や卒業生が交流できる機会を設けることで、本学園の活動を広く社会に発信していきます。

また、開学四〇周年を契機に、卒業生の活躍を学園全体で応援する「瓜生山学園賞」が創設されました。この賞は、本学園で学び、建学の理念を体現する活動や業績が広く社会に貢献する人に贈られる賞として制定されました。

※これまでの受賞者

画家(仏教美術) 岳鉦さん 現代美術家 束芋さん 女優 土村芳さん

現代美術家 宮永愛子さん 京舞 井上流舞踊家 井上安寿子さん

東シナ海の小さな島ブランド社 山下賢太さん SHIBURA HOUSE 伊東勝さん

詩業家 上田假奈代さん 太鼓芸能集団鼓童代表 船橋裕一郎さん

木ノ下歌舞伎主宰 木ノ下裕一さん

Q 同窓会について教えてください

本学の同窓会は「瓜生山同窓会」という名称で、卒業生が相互に親睦、連携を深め、京都芸術大学の発展に寄与することを目的にしています。

卒業生だけでなく、在学生も二年生からは準会員(学生会員)となります。在学生との関りは一年生のねぶたのワークショップと四生生の卒業展での同窓会賞の授与、卒業時の記念品贈呈を行っています。

卒業生を対象とした活動は、制作活動が続ける卒業生の個展・グループ展の支援、日本の文化・芸術を教員と一緒に訪ねるツアーの実施(今迄に直島や萩、大塚国際美術館、養老天命反転地などを訪問)、全国各地で本学の教員が行うワークショップの支援などを行っています。

二〇二六年は瓜生山同窓会が発足した二〇〇二年から二四年目(前身の京都芸術短期大学同窓会からは四七年目)を迎えます。任意団体であった組織を一般社団法人瓜生山同窓会に変更して法人格を取得し、在学生や同窓生のみなさん、本学のためにより力強い活動を展開しています。瓜生山同窓会公式 Facebook や公式 LINE で卒業生や教員の活動を発信しているので、こちらもぜひチェックしてみてください。